

3.3 モニター調査の検討

試験システムを稼動して、実際の公共トイレでモニター調査を行うこととする。より現実的、具体的に検証を行うため、視覚障がい者がよく利用する公共トイレを選定した。また、調査は視覚障がい者がモニターとなり実施した。調査方法や使用するツールの操作に関しても事前に視覚障がい者にヒアリングを行い、より効果の高い調査を目指した。検討した内容は以下のとおりである。

(1) 調査対象とする公共トイレ

普段、外出時に利用する機会が多いトイレ、あるいは利用したいトイレを挙げていただいた。いわゆる公共施設だけでなく、一般に開放されていて不特定多数の人が利用できるトイレを対象とすることとした。したがって本調査研究会で取り扱う「公共トイレ」の定義は次のようにした。

公共トイレの定義：一般に開放されているトイレ

調査対象として病院、役所、公園などが多く挙げられ、集約した結果「金沢市役所周辺」「JR 金沢駅周辺」「石川県庁周辺」の3つのエリア、20カ所のトイレを調査対象にした。なお、今回の調査の便宜上、調査地域を金沢市内とした。

(2) 電子タグの貼り付け位置

ヒアリングにおいて、貼り付け位置決定のポイントとして以下が挙げられた。

- ・個室入口付近にあること
- ・探す際の目印があること
- ・電子タグの読み込み操作が行いやすいこと（できればトイレ個室に入る前に操作できること）

そこで、トイレ個室に必ず設置されている内鍵に着目し、上記のポイントをふまえ、鍵の上部約10cmに貼り付け、調査を行うこととした。

(3) リーダ

リーダは、LEDの点灯によって電子タグ読み取り開始を示すタイプと、視覚障がい者がLEDの点灯を目視できないことを想定して、電子タグ読み取り開始や読み取り完了を音で知らせるタイプを用意した。

(4) ガイダンス

ア 案内する項目

トイレ使用にあたって、案内が必要な項目を挙げ、更に必要不可欠な項目は何かを検討し、次の3項目に絞った。

- ・便器の種類（和式・洋式）・方向
- ・ペーパーの位置
- ・水栓の種類・位置

イ ガイダンス文の長さ（文字数）

人間がごく短時間に記憶できる時間を考慮し、約 20 秒に設定した。これは、文字数にして約 60 文字である。

ウ 方向案内のルールの設定

案内対象物の場所を示すとき、どの位置から見ての方向なのか、が必要不可欠な情報である。つまり、どの地点から見て「左・右」なのか知らせる際の起点を示すことが重要である。しかし、ガイダンスは 20 秒以内に上記の 3 項目を含まなければならない。したがってガイダンス文中にその起点の情報を含むのは難しい。更にはトイレごとに起点を聞き、理解してから対象物の位置を思い浮かべるのは煩雑である。そこで本調査では予め起点を定め、それをルールとし、対象物の位置を理解してもらうという方法をとった。起点は以下のように定めた。


- ・便器の向きは個室に入ってドアを背にした状態を起点とする
- ・ペーパー・水栓レバーは便器に座った状態を起点とする
- ・それぞれの起点から左右上下の表現で案内する

また、案内の順序は、トイレ・ペーパー・水栓に固定する。

エ ガイダンスの文例

金沢市役所守衛室前男子和式トイレを例に、ガイダンス文を表 3.5 に示す。

表 3.5 金沢市役所守衛室前男子和式トイレの写真とガイダンス文

トイレ	ガイダンス文
 <p data-bbox="300 1749 536 1783">入り口側から撮影</p>	<p data-bbox="644 1346 1362 1469">このトイレは 和式 右向き。 トイレットペーパーは 正面壁 右。 水を流すには 左壁の レバーを 押して ください。</p>